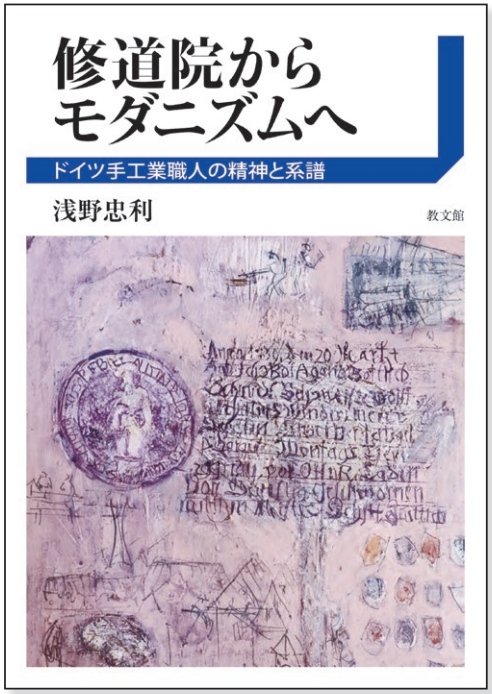
教文館　新刊案内　　9月25日発売予定

修道院からモダニズムへ

ドイツ手工業職人の精神と系譜

浅野忠利 著



EUの盟主・ドイツが培ってきた信頼社会における
倫理性と合理性、および職業観・芸術観の真髄に迫る

ゲルマン民族は古典古代とキリスト教の伝統を受容し、高い倫理性と合理性を基軸として、西欧文明の形成を担ってきた。マイスター制度のもとで知と技を現在まで伝承した手工業職人たちの試練に満ちた軌跡を辿り、新たなヨーロッパの姿を描出する探究。

《著者紹介》**浅野忠利**（あさの・ただとし）… 1937年岡山県生まれ。早稲田大学第一理工学部建築学科卒業。
職歴：1961年株式会社竹中工務店に入社、住宅本部長、取締役を経て1999年常務取締役、2004年退任。その間、1966～68年西ドイツ・ウルム造形大学に留学（1967年助手）。2004～07年都市再生研究所理事、2005～10年相互住宅株式会社顧問、2021～23年一般社団法人日本バウハウス協会初代理事長。
現在：経済同友会同友クラブ理事、NPO法人文化日独コミュニティ理事、一般社団法人日本バウハウス協会顧問、一般社団法人日本建築学会終身会員、NPO法人建築技術支援協会会員、日本基督教団富士見町教会会員（長老）。

A5判・上製・332頁・定価2,750円（本体2,500円+税）・ISBN 978-4-7642-9203-1　C0052